



【すべてを与える為に來られたイエスのように】

聖書箇所: マタイの福音書25章31節～46節・暗唱成句: ルカの福音書6章38節

説教者: 鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!一週間もお変わりなくお元気でしたか。新しく始まった7月、まだ梅雨後半、豪雨など心配ですが、この新しい7月中にも心身霊肉とともに守られ、祝福されますようにお祈り申し上げます。いつも主イエスキリストが皆様とともにおられ、日々生ける力と恵みを雨のように日々豊かに注いでくださいますようにお祈りいたします。

<イエスのように、イエスの習慣に従うことの大切さ>

有名な演奏家やトップのプロの座についてのスポーツ選手たちの日常生活をよく観察してみると、それぞれがトレーニング計画を立て、毎日怠らず続けていることが分かりました。同じ内容を繰り返しているのに、言い訳や不満などないように見えます。一見すると、そのようなトレーニングは非常に退屈で、スポットライトを浴びることは全く関係がないように思えます。20世紀初めから半ばにかけて活躍したポーランドの夢イナピアニスト、パデレフスキは、国家のためにコンサートを開いてほしいという政府の要請を受けました。彼は喜んでやりますと答えながら、こう言いました。「一つだけ条件があります。毎日音階練習をさせて下さい。少なくとも3時間は必要です。報酬は一日8時間働く計算でいただきますが、3時間は音階だけを演奏します。」

彼のように優れたピアニストが一日に3時間音階練習をする理由は何でしょうか。いつか彼がこんなことを言いました。「音階練習を一日休むと、自分の演奏に違和感を感じます。2日休むとコーチが気づきます。3日休むと世界中の人が分かりません。」規則的な音階練習は、ピアニストの指を柔らかくし、柔軟性を保たせます。そのおかげで、速くて難しい部分でも精巧(せいこう)に演奏できる力を保てるのではないのでしょうか。作曲家がいくら難しい要求をしても、ピアニストがトレーニングを通して十分に準備できていれば、難しい楽譜はもちろん、簡単な楽譜も弾きこなすことができず、メロディーを自由に演奏することが出来なくなるでしょう。何度も小さな失敗を繰り返しながら、あたふたと鍵盤だけをうつことにならないのでしょうか。世界トップクラスに上がりつめたあるサッカー選手は、このように言っています。

「私の仕事は、スタジアムを走ってボールをしっかりと受け取ることがすべてではありません。それらをやりこなすために、毎日腕立て伏せを千回ずつしなければなりません」と言われたインタビューを見たことがあります。

イエスキリストのように御言葉に日々とどまる(ディポーション)、イエスキリストのように日々祈る、イエスキリストのように日々愛し、仕え続ける、イエスのように生きる習慣を身につけて習慣になるようにすることが、聖書にイエスキリストが約束されたすべての御力を、恵みを毎日イエスように体験することが出来ると信じます!

私たちは毎日時間を決めて神の足もとに座っているほど暇ではないかも知れません。日々忙しい生活と仕事の中様々な挑戦と課題に直面するからです。それでも、信仰の腕立て伏せや音階練習のようにイエスキリストがこの世に來られ、弟子たちに、今日我らに見せて下さったその模範の一つ一つが、我らの生きる生き方と習慣となりますように切に祈ります。

6月から7月も引き続き、早天祈り会の時に、使徒の働きの御言葉を黙想し続けています。

特に、聖霊の神によって力強く満たされると、地上初めての初代教会だったエルサレム教会が誕生された使徒の働きの内容はほとんどご存じでしょう。特に今週一週間私の心が引かれた箇所が、使徒の働き4章32～35節でした。

「32さて、信じた大勢の人々は心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた。33使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。34彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を承有しているものはみな、それを売り、その代金を持って来て、35使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。」

初代教会の信徒たちはみんな心と意思を一つにしました。彼らは聖霊に満たされて一つになり、所有しているものを共有して愛を実践しました。その具体的な証拠は、経済的な必要に応じて分け与えることでした。そのため、初代教会に貧しい人はいなくなりました。どうすれば、今日我らも、我らの教会もさらにそう出来るでしょうか。

<1. 惜しまずに与えてくださる三位一体の神様>

神様は私たちに天地万物を創ってくださり、罪人である私たちを愛したゆえに、ひとり子を与えてくださり、日々、私たちに良いもので食べさせ、着せてくださり、養ってくださる我々の父なる神であります。そして、聖霊の神様も我々のためにたえず、とりなしをされ、導いてくださり、神の御言葉を御心のように悟らせてくださり、それぞれに相応しく神の賜物を与えてくださるお方であります。

「(コリント人への手紙第2章8節)神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。」

「(コリント人への手紙第12章11節)同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。」

特に、御子イエスキリストは我々を愛し救う為に神の御座を捨てて、ご自身の与える為に一番弱い人間の姿を取り、この地に來られたのです。そして、私たちのために愛の残るところなく与え、惜しまずにご自身のいのちまで十字架の上で与えて下さ

ったゆえに、我々の罪は赦され、救い出される道が開かれました。

みなさんもよくご存知のヨハネの福音書3章16節によると、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ここで、「与える(デイドミ)」という言葉は、さきほど読んで「そのひとり子をお与えになった。」という言葉にも一緒に使われてきました。この世に来られた救い主なる神の御子イエス様の生涯自体を一言でまとめると、与える人生でした。

その為イエスキリストは「このように労苦して、弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを、覚えているべきだということを、私はあらゆることを通してあなたがたに示してきたのです。」(使徒の働き20:35)と言われました。地上では野宿者であり、無所有で、ご自身が持っている物はすべて弟子たちと多くの人々たちのために愛の残るところなく、惜しまずに与えて下さったお方であることが分かります。

このように三位一体の神様は信じ、従う者たちにたえず与えてくださるお方であることが分かります。その与えて下さる神の愛は世々に至ります。御子イエスキリストは、この世に来られたのは、我々を愛され、ご自身を与えるためであると聖書は教えて下さっています。

神を愛し、イエスキリストを受け入れ、信じて従う人たちは当然イエスキリストが自分になされたように、その似姿に益々変わっていく者たちになると信じます。だから、そのような人たちをクリスチャン、キリスト者だというのではないのでしょうか。キリストに従う人生はイエス様のように自分も与える人生を送ろうとします。

ルカの福音書6章38節までの内容は祝福されたクリスチャンたちがどのように生きればこの地上でもさらに祝福され豊かな人生を送れるのかこう教えて下さっています。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく量って懐(ふところ)にいれてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえますからです。」

イエスキリストを信じ、常に主の御言葉通りに生きようとし天国を所有した者たちは、神がすべてを惜しまずに自分に与えて下さったようにあなたも与えなさい！与える者になりなさいと命じられているのです。それは律法や義務より、自然なライフスタイルであり、自発的な愛の生き方を望んでおられます。

なぜでしょうか。我々が信じている神は我々を愛する為に、罪を赦す為に、救うために、惜しまずにひたすらお与えて下さる三位一体の神様だからです！

<2. 我々が与える事が出来る理由:すべてが神様からの神のものである>

愛する信仰の家族のみなさん！この世では自分の物を分け与えたら自分の損であって、自分の分がなくなってしまうのだと言います。しかし聖書は真逆に、与えなさい！与えればさらに豊かにされるとイエスキリストは約束して下さいます。

なぜでしょうか。

我々は知っているからです。私たちが持っているすべては自分の物ではなく、すべて主から一時的に各自に預けられているものであって自分の所有物ではないことを(マタイ25章14～30)知り、信じているために、主が喜ばれるところに、主が望んでおられる通りに分け与える事ができます。

「そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ記1章21節)」

特に、マタイの福音書25章でイエス様のタラントのたとえ話と羊とやぎのたとえ話を通して、人に与えられているすべては神様からしばらくこの地上での一度許された人生に預かっている神のものであることを教えて下さっています。

人の一度の人生も、命も、預けられている時間や家族、物質でさえもただ全てが主からそれぞれ能力に応じて主からしばらくの間、各自神から預かっているものであって、神が我々の魂を呼んで下さって一度のこの人生を終えると、主の御前に立たされる時が来たら、主が各人生に預けて下さった物を主のためにどのように用いたのか清算する時が必ず待っている事を聖書は明確に教えて下さっています。

今日のたとえ話の目立つ特徴は、イエスキリストの再臨の時が記されていることです。

マタイの福音書25章31節をどなたが読んでいただけますでしょうか。

「人の子は、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の座に着きます。」

まず、今日の本文マタイの福音書25章33～40節をご覧ください。

まず、神の御国に入れる右の羊側に立っていた人々の神の基準は何でしたか。

本文34～36、40節をご覧ください。「34それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。35あなたがたはわたしが空腹であったときに食べる物を与え、渇いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、36わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』40すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』」そうじゃなく、主から頂いているものがあるのにも関わらず、最後までわしづかんいながら、ただ自分のためしか使わなかった物に主からの厳しい評価が待っている事も聖書が教えて下さっています。

今日の本文マタイの福音書25章の41～45節をご覧ください。

「41それから、王は左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。42おまえたちは、わたしが空腹であったとき食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、43わたしが旅人であったときにも宿を貸さず、裸であったときに服を着せず、病気のときや牢にいたときにも訪ねてくれなかった。』44すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いていたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』45すると、王は彼らに答えます。『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかった。』」
*「世話をする」と言う意味:ギリシャ語「ディアコネオ」、その意味:奉仕する、仕える(=愛の分かち合い&分け与える)意味であります。

*「最も小さい者たち」:(one of the least of these brothers of mine):今だれかの愛の助けと支えが必要としている全ての人たち①自分も主の愛と恵みを頂いた最も小さな者の一人でした!②最も小さい者だった自分もだれかの愛の助けと支えを通して!③今も自分の周りに愛の助けと支えが必要な小さな者たちが多くいます。

“あなたがたの助けを必要としている兄弟姉妹を見た時、それはあなたの前に立てておられる主を見ている時だ!”

(タティアヌス・クレメンズ)

今まで我らに与えられているものがすべて神様からこの地で生かされている限り、預かっている神のものであると信じる人々こそ、分け与える人生を實際送ることが出来ると信じます!

*ヤコブ人への手紙2章14-17節

「14私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも欠いているようなときに、16あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。17同じように、信仰も行ないが伴わないなら、それだけでは死んだものです。」

信仰によって、ただ神様の恵みによって救われた神様の民の生き方はイエスキリストのように分け与える人生を常に根ざし、そのように送ろうと目指します。そして、イエス様は私たちに与えなさいと言われながらそこには何の条件も付け加えません。神様は私たちみなを祝され幸せで、豊かな人生を過ごすことを願っておられます。ですから、キリストがそうなされたようにクリスチャンの信仰と人生をも一言で言わせるなら、それは与える生き方、与える人生ではないでしょうか。

<3. イエスキリストのように分け与える者にさらに与えられる神の祝福>

今日の本文に戻って、ご一緒にもう一度読んでみましょうか。「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺(ゆ)すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐(ふところ)にいれてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」(ルカの福音書6:38)

つまり、神様は与える人にはより良いもので報いてくださるという御言葉です。私たちの神様には負い目になさることは決してありません。かならず、神様は報いてくださいます。ですから私たちが善を行って、ほかの人を助けてもてなしてあげたのに‘何、お礼の一言もない’と怒る何の必要もありません。なぜなら、神様はかならず報いてくださるからです。

“与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺(ゆ)すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐(ふところ)にいれてもらえます。”という御言葉は神様の豊かな約束です。“気前よく図って(メトロンカルロン:最善の分量)”という意味は“必要に一番最大限の量で与えられる”という意味です。ですからこの箇所の意味は自分にできるだけ多く最大限与えられるという意味です。

「10必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。11貧しい人が国のうちから絶えることはないであろう。それゆえ私はあなたに命じる。「あなたの地にいるあなたの同胞で、困窮している人と貧しい人には、必ずあなたの手を開かなければならない。」(申命記15章10-11節)」

コリント人への手紙第二(2Corinthians)9章6-9節には我らにこう約束されています。

「6わづかだけ蒔く者は、わづかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は、豊かに借ります。7一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださるのです。8彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれているようにです。9彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれているようにです。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!なぜ与えることが祝福になるのでしょうか。おさない子供たちであればあるほど、自分が受けようとするばかりで、その時が嬉しいですが、自分のお菓子を分けて与えようとするのが嬉しくないのではないのでしょうか。しかし、こどもたちが徐々に大きくなり、成熟すると与えることを学び、その価値を知ることになるように同じではないでしょう。信仰にも段階があります。まだ未熟な子供のような信仰を持っている時は自分がぐださい

めるばかりで、自分の受ける祝福ばかり祈り、願い、考えます。周りがどうであっても、どうなっても重要じゃありません。しかし、イエスキリストのまことの愛と恵みを経験すればするほど、イエスキリストの弟子として成長すればするほど、そのようなクリスチャンはイエスキリストがそうなされたように似てるように自分も与える者になって行きます。聖書ではそのような人が成熟されたクリスチャンであり、まことに祝福された者であると教えて下さっています。

聖書はこう語っています。マルコの福音書9章41節に、「まことに、あなたがたに言います。あなたがたがキリストに属する者だということで、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。」

「失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。」(ガラテヤ人への手紙6章9節)
神様はかならず、キリストの愛を持って分け与えることに忘れず、すべて報いてくださるお方です。そして「与えなさい。そうすればあなたがたに与えられる。」と言われました。私たちの神様はけっして負債を負うお方ではありません。自分のものを喜んで分け与えるとき神様も私たちに与えてくださいます。特に神様は貧しい人、特に困難な環境に助けが必要とされている人々を覚え、彼らの必要を供給する人々を愛しておられます。

私たちは子供たちに将来何かを残してやろうと恋々(れんれん)としているのではありませんか。しかし、覚えてください。子供に金を残してやると兄弟の関係も、親子の関係もその金によって苦しくなるのみです。ですからまことに子供を愛するならば、祝福されてほしければ、神の前で善をたくさん行ってください。まず、子どもたちの前で分け与え、助けてあげる人生を見習うようにたくさん見せて下さい！そして、子どもたちも小さなことから与えることが出来るように教えて上げて下さい。かならず蒔いた分の刈り入れをみなさんも、みなさんの子どもたちの時代に報われると信じます。みなさんは今日何をまいているでしょうか。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私たちの神様は真実な方です。神様はどんな形でも、だれを通してでもかならず分け与えたことに忘れず報いてくださいます。私たちの神様はけっして借りる方ではありません。

<4.これからイエスキリストのように具体的に愛を分け与える者になりましょう。>

すると、私たちはだれに与えるべきでしょうか。‘誰にでも与えなさい’と聖書は言われます。いつ与えるべきですか。いつでも関心を持って、助けが必要な人がいたら、与えるべきです。どうしてある時だけ与え、ない時には与えないようにするのでしょうか。

ユダヤ人たちの間で、言われてきている話の中でミドラシという話があります。モーセが死ぬ前に救済について民たちにこのように教えます。“あなたがたが救済をよくすればのちには豊かになって、お金を借りに行く人もいなくなってくるはずだ。”すると民の一人が“そしたら、自分の所得のいくらを救済すればいいのでしょうか。”“10分の1なら十分でしょうか。”“もし私に救済するお金がない時に、また来たら、手ぶらで帰してもよろしいでしょうか。”その時モーセはこう言ったそうです。“お金がないなら助けが必要な人に愛の親切でも与えることができるのではないか。これはお金よりもっと大きいものを与えることになります。”

愛の親切！(温かい励ましの言葉、慰めや感謝の言葉と姿勢、笑顔と温かい微笑み、傾聴して上げる事、心からその人のために祈ってあげる事、だれかの必要さや困っている事に思い遣り、心遣いを持った配慮と仕えなど)はかならず物質やお金がかからなくても、年齢関係なくだれでも出来ることであり、与えることが出来るでしょう。

我らのために、すべてを与えるために来られたイエスキリストは、今日我らに、「与えなさい！」と命じておられ、願っておられます。「だれでも困っている人々、何か助けが必要とする人がいるなら、手を差し伸べてあげなさい、与えなさい。」という意味です。そして「さらに主から頂くことを望む者は、まず人に与える者になりなさい。」という意味も含まれています。今日の御言葉は愛の具体的な行いについて語っています。人類歴史上一番与える生涯を送った方はまさにイエスキリストでした！

<本日のメッセージのまとめ>

この7月、この世に我らを愛するがゆえに惜しまずすべてを与えるために来られたイエスキリストを見習い、実際に教会や牧場の家族に、周りの人々にキリストの愛を喜んで分かち合い、与える愛に満たされる私とみなさん、我らの教会となりますように切にお祈り申し上げます！

覚えて下さい。今自分が所有しているすべてがただ神様からしばらくの間、預かった主のものであります。しばらく預けて下さっている神の物です。神はむしろ神の物を自分の物とさせず、流し、分け与える者に、必ずさらに豊かに自分のもののように神は満たし、与えて下さいます！自分が持て置いているまま、この世を去ると、所有していたすべてのものは結局神様が預けて下さったのにもかかわらず使わず、ただ浪費してしまったこととなります。そして神様の御前でその結果に対する責任が問われることになるでしょう。十字架につけられる前に信じ、従っている弟子たちに残るところなくすべての愛を示し、惜しみなく与えて下さったイエス様のように、我らがキリストの手足となって神の愛を惜しみなく与え続けましょう。

みなさんの微笑みを、親切を、暖かい言葉を、愛の手を、助けを、みなさんの祈りを、自分の時間や物を、必要な人々の為に、何よりもこのイエスキリストの救いの福音を分け与える者として大いに用いられる7月、これからの人生となりますように神の祝福を切にお祈り申し上げます！アーメン！！